

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日		令和6年5月1日
② 法人・団体名	特定非営利活動法人子育てサークルネットしずおか		
③ 所在地	〒420-0945 静岡県葵区桜町 1-17-29-3 市川方		
④ 責任者氏名	市川久二子	(役職名等)	理事長
⑤ 担当者氏名	稲木浄美	(役職名等)	事務局長

【奨学活動の概要】					
⑥ 助成交付決定番号	R05-008	⑦ 助成金額	86万円	⑧ 申請カテゴリ	D
⑨ 奨学活動名	さまざまな困難を抱える子どものタブレットを活用した包括的学習支援				
⑩ 主な実施場所	静岡県地域福祉共生センターみなくる				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

「居場所型支援」、「オンライン支援」、「訪問支援」、「保護者支援」を組み合わせた包括的な学習サポート不登校、発達障害、ひとり親家庭、経済的ハンデのある小・中学生などを対象とした学習支援と保護者の相談活動。不登校で外出が困難な場合や、学習ルームに來れない子どもには、訪問指導で関係を築き、段階的に学習ルームへと導く。直接対面が苦手な子は、オンライン指導で程よい距離を保ちながら信頼関係を築き、訪問指導に繋げる。今回の事業で購入したタブレットを活用したことで、勉強に集中できない子どもが興味をもって取り組めるようになり、学習以外でも、絵を描いたり、パズルなどを通してスムーズにコミュニケーションを図ることができた。また映像授業やデジタル教材により、教える部分が少なくなること、その分、子どもたちの個々の発達特性や状況に応じた支援と対応に時間と力を注ぐことができた。また学習支援の活動に興味のある人に指導体験をしてもらうことを積極的に受け入れて事業への理解をしてもらい、子どもの居場所活動を始めたい人に、立ち上げのノウハウと助言を行い、居場所型学習ルームを地域にもっと広く増やしていくためのきっかけづくりとなった。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A:人)	平均時間 (B:時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	80	2.0	160	
高校生等	31	2.0	62	
大学生等	0	0	0	
学習支援員等	138	2.0	276	
その他	28	1.5	56	保護者相談・生徒見学9件
合計			554	支援者相談(立上げ相談含む)・見学19件

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和5年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：さまざまな困難を抱える子どものタブレットを活用した包括的学習支援

法人・団体名:特定非営利活動法人子育てサークルネットしずおか

制作者 氏名:稲木浄美

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

- (1)必要としている子どもに学習ルームの情報を届けるために、近隣の小中学校を訪問。スクールカウンセラ、スクールソーシャルワーカーなど関心のある先生には、積極的に見学を受け入れ、事業の説明会を開催した。
- (2)会場の座席数が限られているため、問い合わせのあった入会希望者の全員の受け入れは困難であったため、不登校など居場所の必要な子どもを最優先とした。定員オーバーで受け入れのできない子どもは他の支援機関を紹介。
- (3)学力の個人差だけでなく、その子どもの背景や状況、精神的な安定度、集中力の度合い、発達特性などを考慮して対応する必要がある、また子どもとの相性もあり学習支援員の配置が難しかった。支援員の学習会、交流会を行い、子どもの対応について情報交換と共有をした。

今回の事業で購入したタブレットを活用したことで、勉強に集中できない子どもが興味をもって取り組めるようになり、学習以外でも絵を描いたりパズルなどを通して、スムーズにコミュニケーションを図れた。更には映像授業やデジタル教材により、教える部分が少なくなることで、その分、子どもたちの個々の発達特性や状況に応じた支援と対応に時間と力を注ぐことができた。また学習支援の活動に興味のある人に指導体験をしてもらうことを積極的に受け入れて事業への理解をしてもらい、子どもの居場所活動を始めたい人に、立ち上げのノウハウと助言を行い、居場所型学習ルームを地域に広く増やしていくためのきっかけづくりとなった。

2. 実施した奨学活動の詳細

◎活動内容の詳細

【会場】静岡市地域福祉共生センター「みなくる」

【日時】毎月2回、日曜日 10:00～12:00

【対象】不登校、発達障害、ひとり親家庭、
経済的ハンデのある小・中学生、高校生

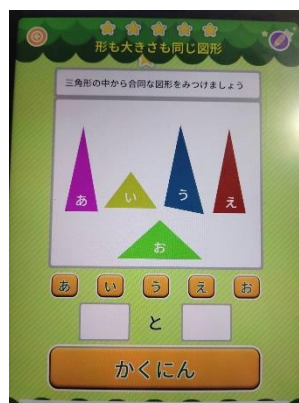
【会費】無料(損害保険、諸経費別)

【内容】居場所型支援、オンライン支援、訪問支援、保護者支援を組み合わせた包括的学習サポートと、学習支援員の人材育成。

◎参加人数

【小中学生】 延べ119名、高校生 延べ31名、

【学習支援員】 延べ138名、



〈タブレットの学習アプリ〉

【保護者相談・見学】9件、

【教育機関、学習支援に関心のある人(立ち上げ相談含む)】19名

◎周知に協力いただいた機関、関係者ほか

静岡市地域福祉共生センター(事業協力)、静岡市子育て支援団体連絡会(チラシ配架)、静岡市青少年育成課、静岡市発達障害者支援センター、子ども若者相談センター、静岡市引きこもり地域支援センター。その他の公共機関(各図書館、各児童館、各生涯学習センター、市民活動センター)。小児科思春期外来などの医療機関。

◎地域や民間団体との連携

近隣の小中学校を訪問し、全校生徒にチラシ配布の依頼。子どもの居場所を運営する民間団体と連携し、不登校の子どもと親の心のサポートを行った。必要に応じて行政支援機関や医療機関へ繋いだ。小中学校の教諭、スクールカウンセラー、支援者など見学の受け入れは積極的に行い、広く学習ルームを知ってもらった。

◎学習支援員について

地域域の有志ボランティアで構成。指導経験は問わず、子どもに寄り添ってくれる社会人を対象とする。R5年7月～R6年3月の期間に、学習支援員(ボランティア)が新たに5名入会、現在の登録数は21名。参加生徒の状況に応じてスタッフシフトを組む。基本は子どもとスタッフが1対1対応。

R6年度にボランティアに関心のある方の問い合わせが8名あり。学習支援員として5名増え、現在登録数19名。学習指導の経験の有無は問わず、子どもに寄り添った対応のできる社会人を条件として、最終的には面談と指導体験によって決定。学生の受け入れはせず。活動で知り得た子どもの情報の守秘義務と、子どもの連絡先は学習支援員には伝えず、活動以外では関わらないことを徹底している。

◎購入した機材・物品の写真(助成金表示用シールの貼り付け)

タブレット4台

電子ボード5台

卓上クリーナー4個

学習タイマー4個

知育カード・ゲーム



*コロナ感染拡大が収束してきたため、予定していた卓上パーテーションの購入はせず。

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

人に関心を持って意欲のある子であれば、必ずよい方向に変わっていく。学習支援を行うにあたって、子どもの学力の個人差は関係なく、いかに支援者と子どもが信頼関係を築けるかが重要である。たとえ毎回決まった担当でなくても、支援員のなかで活動の主旨と方向性が共有できていれば、子どもの目線に立ち、同じように子どもを思い、見守り対話を続けて行くうちに子どもたちは心を開いて学習を一緒に頑張ろうとする。この経験が、子どもたちの次のステップに繋がり、悩んだ時、助けが欲しい時に大人に相談し頼る勇気の持てる子

に成長する。また学習支援だけでなく、保護者の支援が重要であり、親の気持ちが変わると子どもも安定し自ら前に進もうとする。今回の事業で子どもから学ばせてもらったことが多かった。

◎今後への発展性

学習ルームを単立った子どもが大学生、社会人となり、今度は学習支援員として活動に参加するといった広がりを作る。また、公立の各中学校には相談室・学習室があり、教室に入れない子どもたちが過ごすことができるが、小学校は教育相談員の配置もない。地域の住民やボランティアが協力し、校内に学習ルームが立ち上がるよう働きかけていく。



<スタッフ研修会>



<コミュニケーションカード>



<スタッフ託児>